

(3/21 常任幹事会資料)

## <清澄白河・大正記念館と白河>

～白河楽翁公と渋沢栄一翁との関係からみた旧制白河中学の位置付け～

東京の住居表示に「江東区白河」が在り、地下鉄半蔵門線に「清澄白河駅」が在り、楽翁公の菩提寺である「靈巖寺」、更には清澄庭園内に「大正記念館」が存在し、白河そして白河中学にも深い関わりがあります。では、これらの関係を時系列でみていきます。

\*大正14年5月2日 渋沢栄一は白河中学の創立を大変慶び、東京帝大教授で文部大臣にも(1925年)も指名され、昭和天皇の御進講役である三上参次博士を丸野白河町長に紹介し、白河中学に派遣して全校生徒に「白河楽翁公の功績」を講義しました。

\*昭和4年5月27日 渋沢が会長となり「楽翁公遺徳顕彰会」を財団法人として発足(役員:三井八郎右衛門、東京府知事、東京市長・堀切善治郎、三上参次 ほか東京府・市の幹部達)。尚、この会の主旨は、現在、東京都慰霊協会が引き継いでいます。

\*昭和4年6月14日 顕彰会の主催により、深川・靈巖寺で楽翁公の100回忌法要。3日間にわたり東京商工会議所で、「白河楽翁公展覧会」を開催。満員の会場で東京市民、報道陣を前に渋沢栄一と三上博士は次のような演説をおこなっています。  
「江戸から明治になる混乱期に、東京の基盤整備が出来たのは、白河楽翁公が残してくれた寛政の改革・七分積立金のお陰である。このご恩を東京の皆さんは決して忘れてはなりません」。このニュースが全国に報道され、白河楽翁公の人気が一気に全国的に高まり現在に至っています。この一環で東京市は白河町を制定しました。

\*昭和6年6月13日 清澄白河・大正記念館に於いて、楽翁公遺徳顕彰会は多くの政財界人を招いて、「白河楽翁公記念講演会」を開催し、渋沢栄一と、楽翁公伝編纂者の中村孝也博士が楽翁公の、東京の基盤整備への大きな貢献について講話をしています。

上記のように清澄白河・大正記念館は、多くの人達の関わりにより、白河そして旧制白河中学・白河高校にも、渋沢栄一とブレンとの深い繋がりがあります。

そして時代は平成となり、東京メトロ(旧営団地下鉄)は半蔵門線の三越前駅からの延伸駅名を「清澄白河駅」と名付けて現在に至り、大正記念館は徒歩3分に位置します。

東北出身者にとって上野は心の駅ですが、清澄白河は白河地方・白中・白高出身者にとっての、歴史に埋もれた心の拠り所と言えます。

尚、南湖神社創建以来、終戦までの四半世紀にわたり、白河中学は南湖神社を毎年春5月2日と秋11月3日の年2回、校長・教職員そして生徒全員が揃って参拝しています。